



招源実書
十五

2巻 18
1580
15



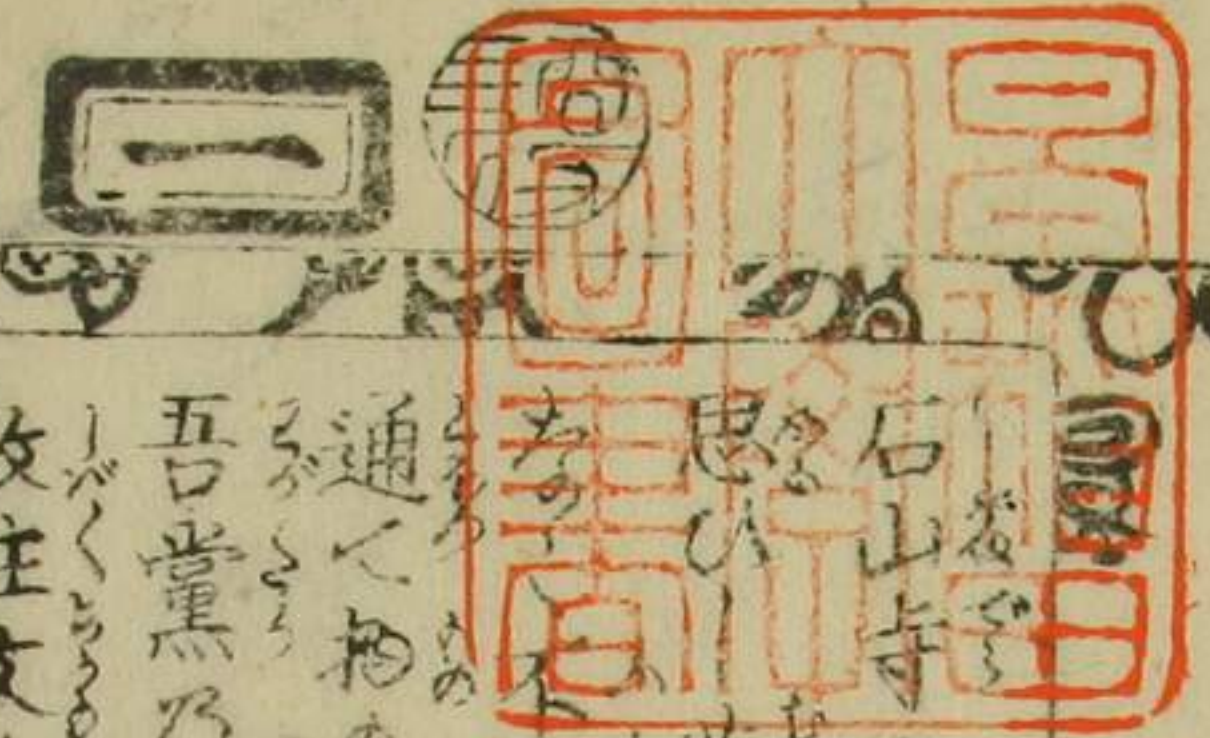
門へ遠 15
番 1580
卷 15

石山寺 小参 菟 若て 源氏 之作 物と 計 一向に 心得 一ハウニコウル 獣角 堂

思ひ 昔のさ 今之 段々 理を 究め 大地の 徳の 如きものと 説ふ 疑ふ 者曾く
孝の 二乃 山も 孝 冥の 御代 ぞいも 人 信せ 然ハ有と 空言ハ 又 虚説ハ

通く 相の本 草造 紙と して 哭たり 又 笑ふ して 悦ぶ ハ 道理の 外 姑 娯樂 あり 此れ
吾黨 乃 幸あり あり 以て 名も 相 老 實 紫ハ 修 紫の 面影 小 微へ くと 板元
教注 支 あり 其 由 縁 あり 終る とい して 年々 小 延 一 あり 一 紫 式部 の 後 家

に なる 話も 已 小 近 づか れ 是 より 華ハ けり 薄ら け 實 勝の 所ハ 雜 業 達 の
必 適 意 あり 今 多 不 淺 ね 田 舎 漆 彼 紫 筆 々 摘 出 して 源 氏 乃 大 意 々 遠 之
ら ぞ 書 する 中 には 結 搦 たり 其 併 々 写 繪 也 御 劇 熟 多 き ぞ 力 あり 七 七 編
の あり あり 桐 壺 草 帯 水 と 記 出 さん あり あり あり 石 山 あり あり 和 本 蒲 團 の
形 の 東 山 七 窓 あり あり 京 極 の 家 小 筆 々 々 あり あり あり 大 御 時 小 一 一 書





齋院さいいんの少将しょうしょう

つれのはらぬまら女流にゅうりゅうの
 いあまのささめしひ終はつけり
 あらねいとやむこと
 ちたさのまのあま
 ぬるまきくれてやま
 めた終はつあり
 きりちし終はつ
 よのこれ
 ちよあひ
 あがの終はつる流りゅうさく
 免めんさあしきあのりおとめ
 それえ終はつおれしはとそれ
 あまけらう乃のういそあ
 ましとやまらう流りゅうあさゆめ



式部しきぶ丞じやう
 惟規ただのり
 のみりの北國きたくにを
 没なげりしは
 十訓抄じゅうくんしょう難後なんご
 拾遺しゅうい等とうお
 免めんえられど
 此草紙このくさしの
 長壽ちやうじゆせし
 かろふ
 ちよま

出^いたるその巻^{まき}の繪^えをもて口^{くち}画^がの補^お景^{けい}とまもるも猶^{なほ}一角^{いっかく}の堅^{かた}いと誹^{たが}と
手^て毬^まつく子^こや不^ふ二^に額^{がく}の姉^{あね}さんゆの疎^そまれぬぐくや

壬戌春新刊

柳亭種彦

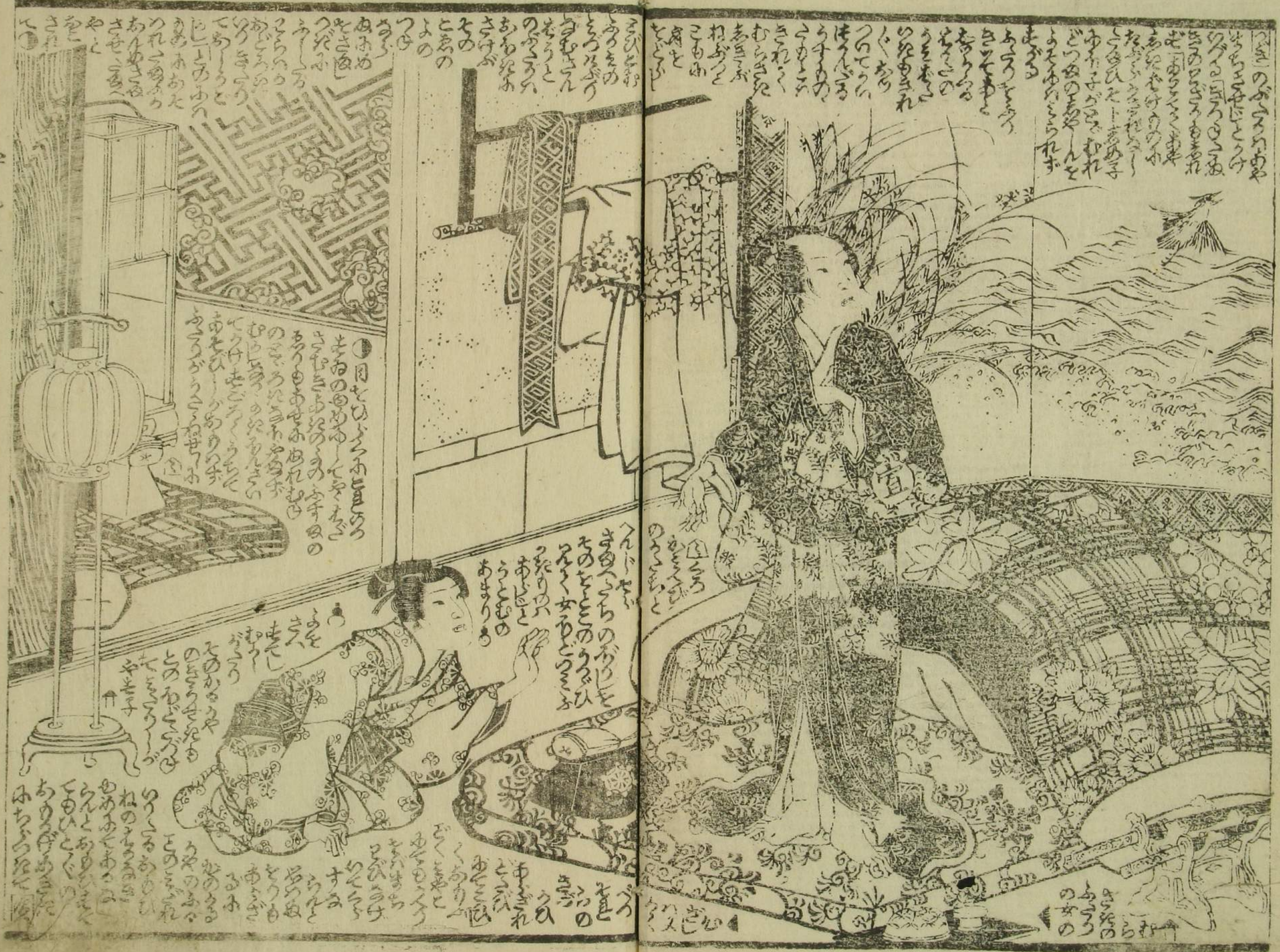


○ちんちんの巻の繪の補景とまもるも猶一角の堅いと誹と
手毬つく子や不二額の姉さんゆの疎まれぬぐくや
左の巻の繪の補景とまもるも猶一角の堅いと誹と
手毬つく子や不二額の姉さんゆの疎まれぬぐくや
○ちんちんの巻の繪の補景とまもるも猶一角の堅いと誹と
手毬つく子や不二額の姉さんゆの疎まれぬぐくや



○ちんちんの巻の繪の補景とまもるも猶一角の堅いと誹と
手毬つく子や不二額の姉さんゆの疎まれぬぐくや
○ちんちんの巻の繪の補景とまもるも猶一角の堅いと誹と
手毬つく子や不二額の姉さんゆの疎まれぬぐくや
○ちんちんの巻の繪の補景とまもるも猶一角の堅いと誹と
手毬つく子や不二額の姉さんゆの疎まれぬぐくや





いづれのふらふらと
はらりたてとく
のうらたつらつら
さるのうらたつらつら
おののうらたつらつら
あはれたつらつら
なつらつらつら
さるのうらたつらつら
あはれたつらつら
なつらつらつら
さるのうらたつらつら
あはれたつらつら
なつらつらつら

あつらつらつら
さるのうらたつらつら
あはれたつらつら
なつらつらつら
さるのうらたつらつら
あはれたつらつら
なつらつらつら

あつらつらつら
さるのうらたつらつら
あはれたつらつら
なつらつらつら
さるのうらたつらつら
あはれたつらつら
なつらつらつら

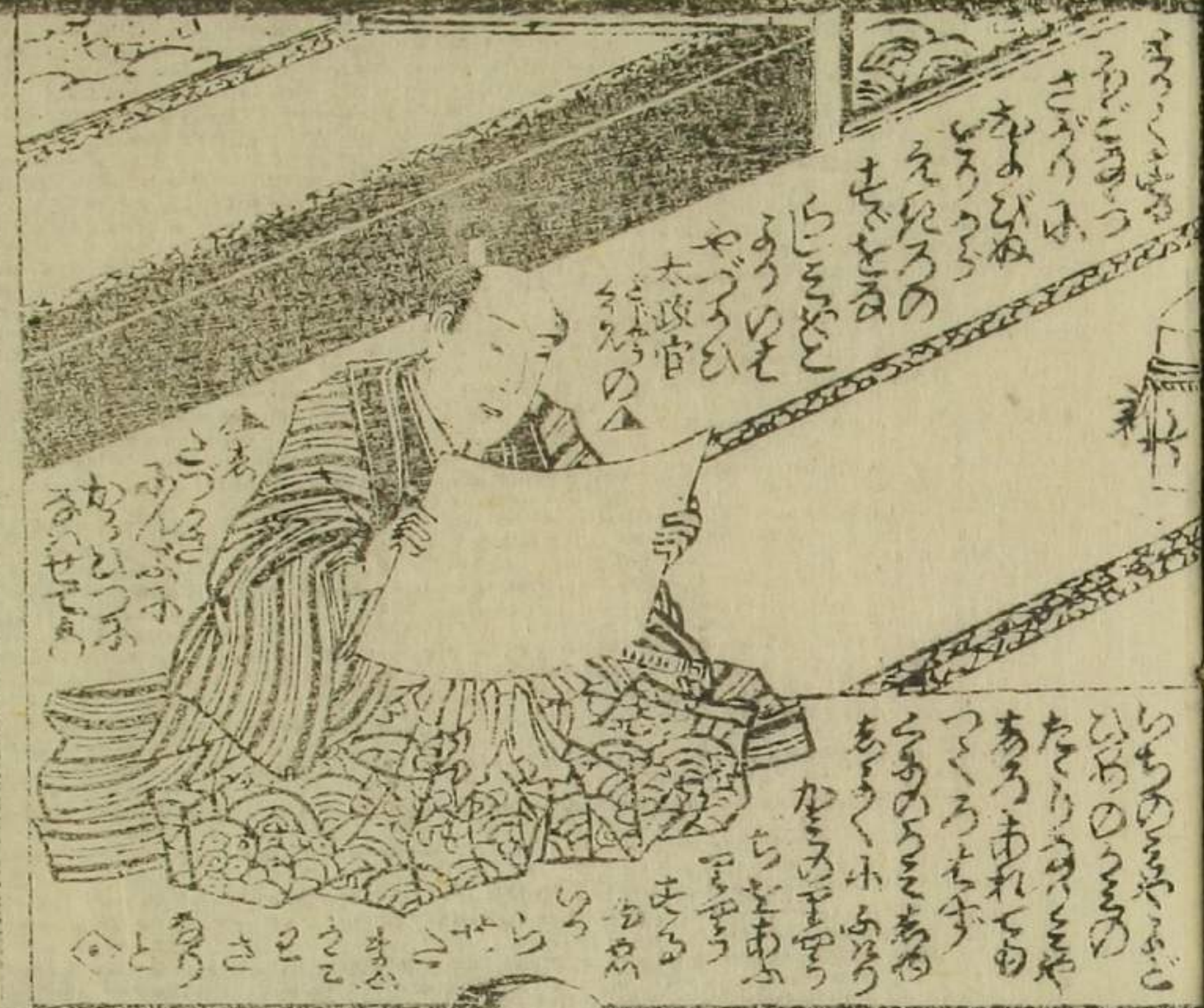
あつらつらつら
さるのうらたつらつら
あはれたつらつら
なつらつらつら
さるのうらたつらつら
あはれたつらつら
なつらつらつら

あつらつらつら
さるのうらたつらつら
あはれたつらつら
なつらつらつら
さるのうらたつらつら
あはれたつらつら
なつらつらつら

あつらつらつら
さるのうらたつらつら
あはれたつらつら
なつらつらつら
さるのうらたつらつら
あはれたつらつら
なつらつらつら

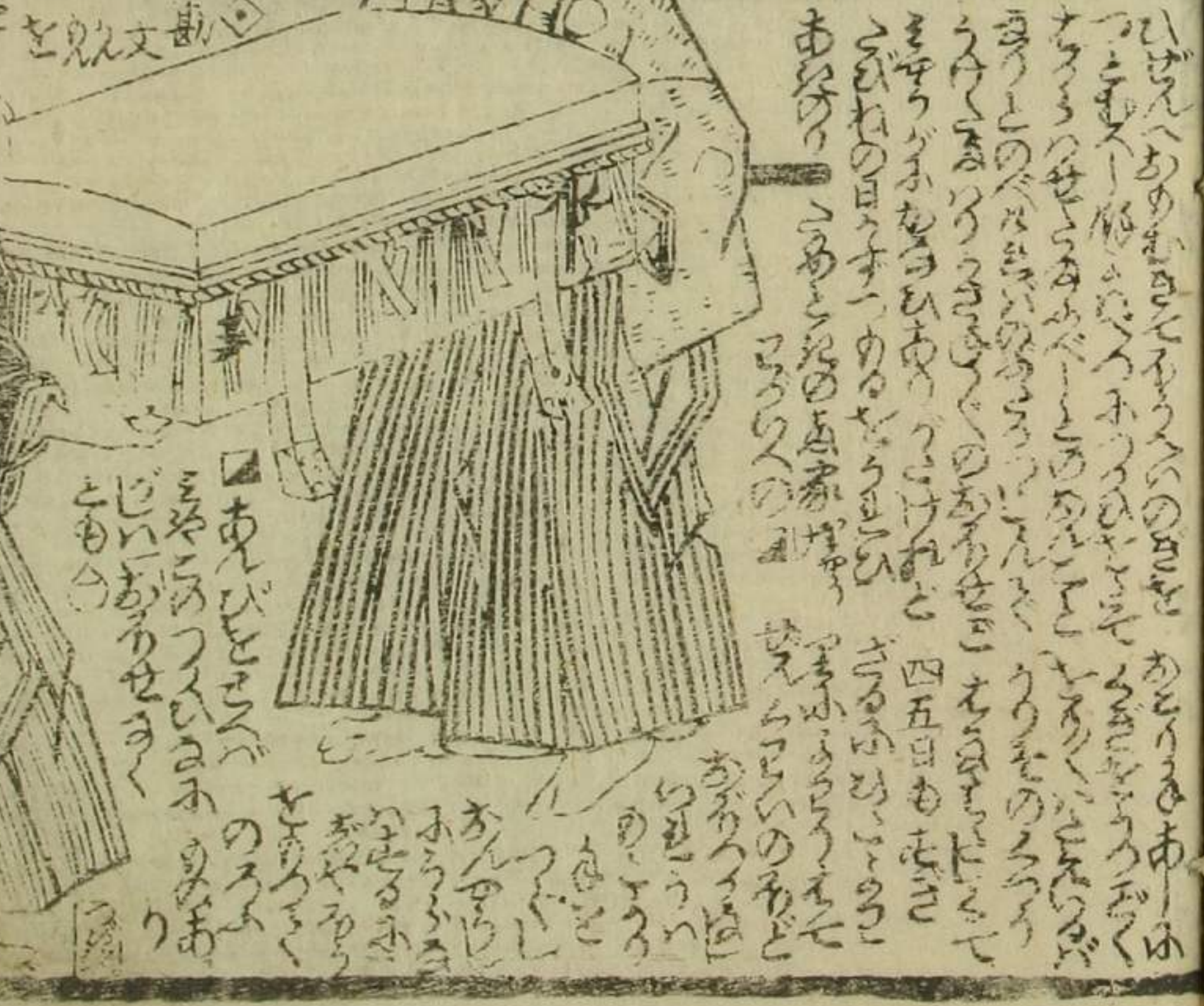
あつらつらつら
さるのうらたつらつら
あはれたつらつら
なつらつらつら
さるのうらたつらつら
あはれたつらつら
なつらつらつら

あつしつきの
つう小舟を
よりの一た



あつしつきの
つう小舟を
よりの一た

あつしつきの
つう小舟を
よりの一た

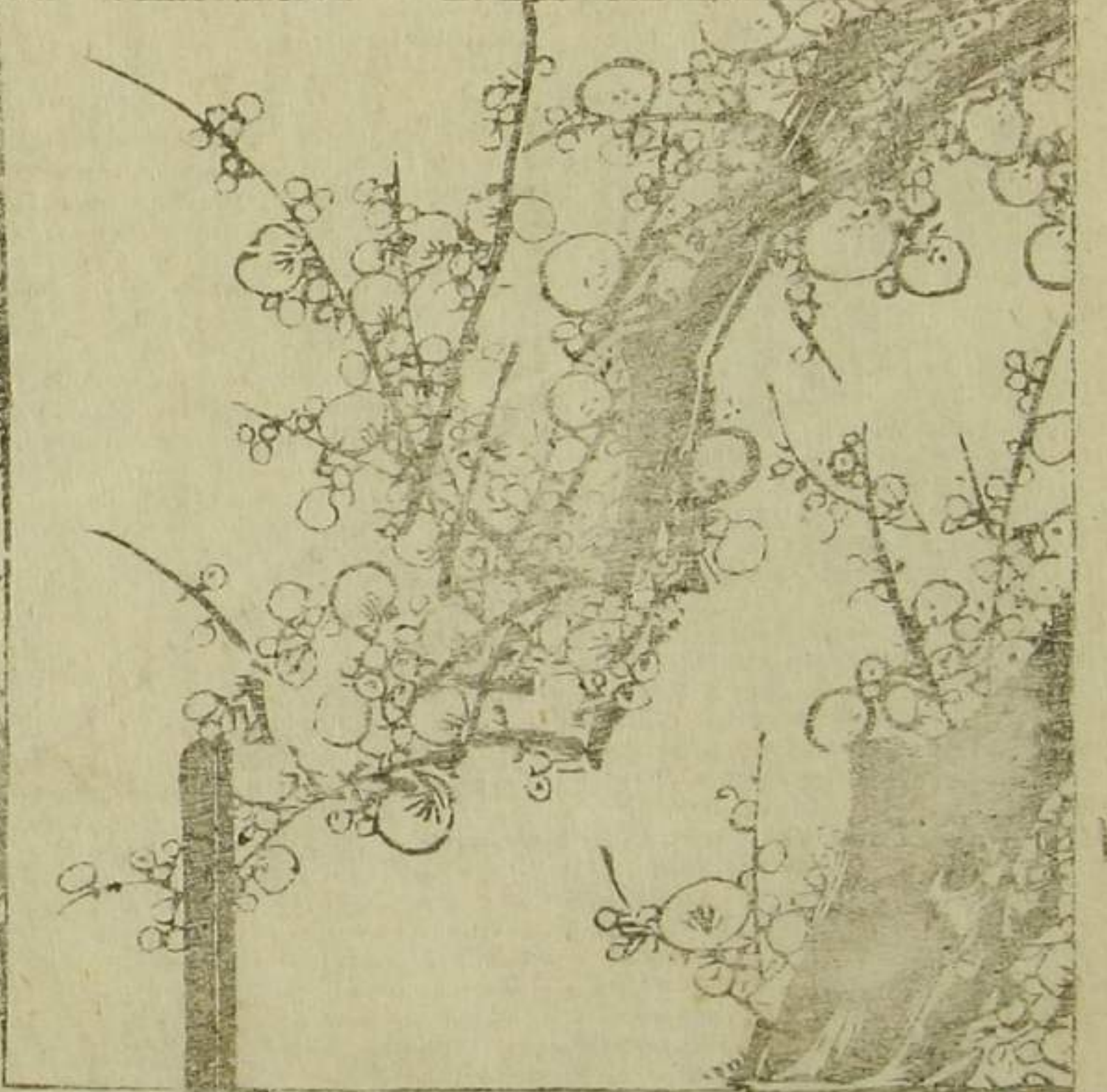


あつしつきの
つう小舟を
よりの一た



あつしつきの
つう小舟を
よりの一た

あつしつきの
つう小舟を
よりの一た



あつしつきの
つう小舟を
よりの一た



あつちをせむらりのまららうのよふ
のひせのふらふらめいふふらふら
のひせのふらふらめいふふらふら
さんぬるせふのふらふらめいふふら
せふのふらふらめいふふらふら
ふらふらめいふふらふら
あつちをせむらりのまららうのよふ

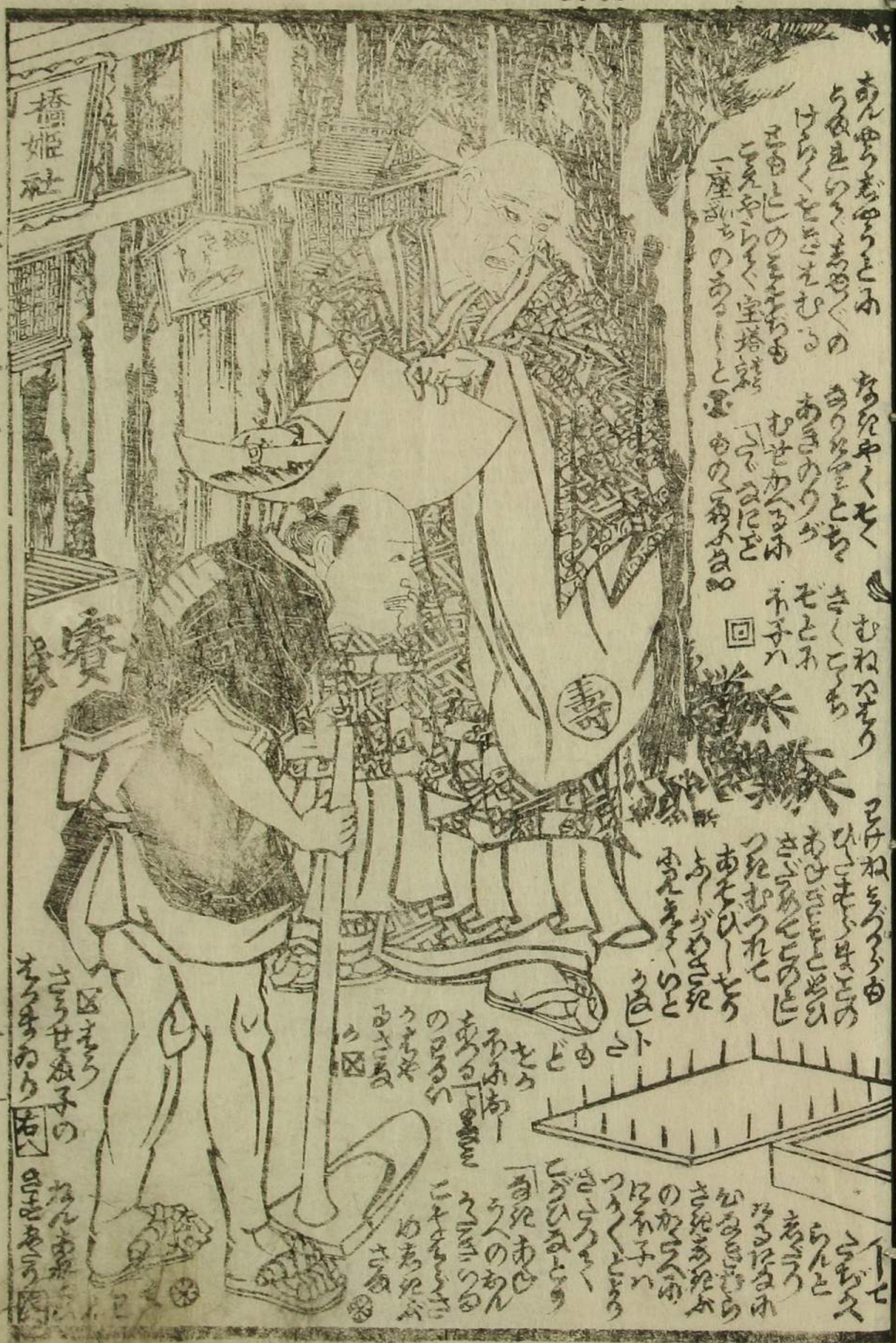
あつちをせむらりのまららうのよふ
のひせのふらふらめいふふらふら
さんぬるせふのふらふらめいふふら
せふのふらふらめいふふらふら
ふらふらめいふふらふら
あつちをせむらりのまららうのよふ



あつちをせむらりのまららうのよふ
のひせのふらふらめいふふらふら
さんぬるせふのふらふらめいふふら
せふのふらふらめいふふらふら
ふらふらめいふふらふら
あつちをせむらりのまららうのよふ



あつちをせむらりのまららうのよふ
のひせのふらふらめいふふらふら
さんぬるせふのふらふらめいふふら
せふのふらふらめいふふらふら
ふらふらめいふふらふら
あつちをせむらりのまららうのよふ



あんなにさうとふ
らぬまのうまの
けりくせとせむ
まよとのまよ
こえやうく宝塔
一座ののありと
まよののあり

むねのま
ましく
そと
そと
まよののあり

まよののあり
まよののあり
まよののあり
まよののあり

まよののあり
まよののあり
まよののあり
まよののあり

橋姫社の
まよののあり



あんなにさうとふ
らぬまのうまの
けりくせとせむ
まよとのまよ
こえやうく宝塔
一座ののありと
まよののあり

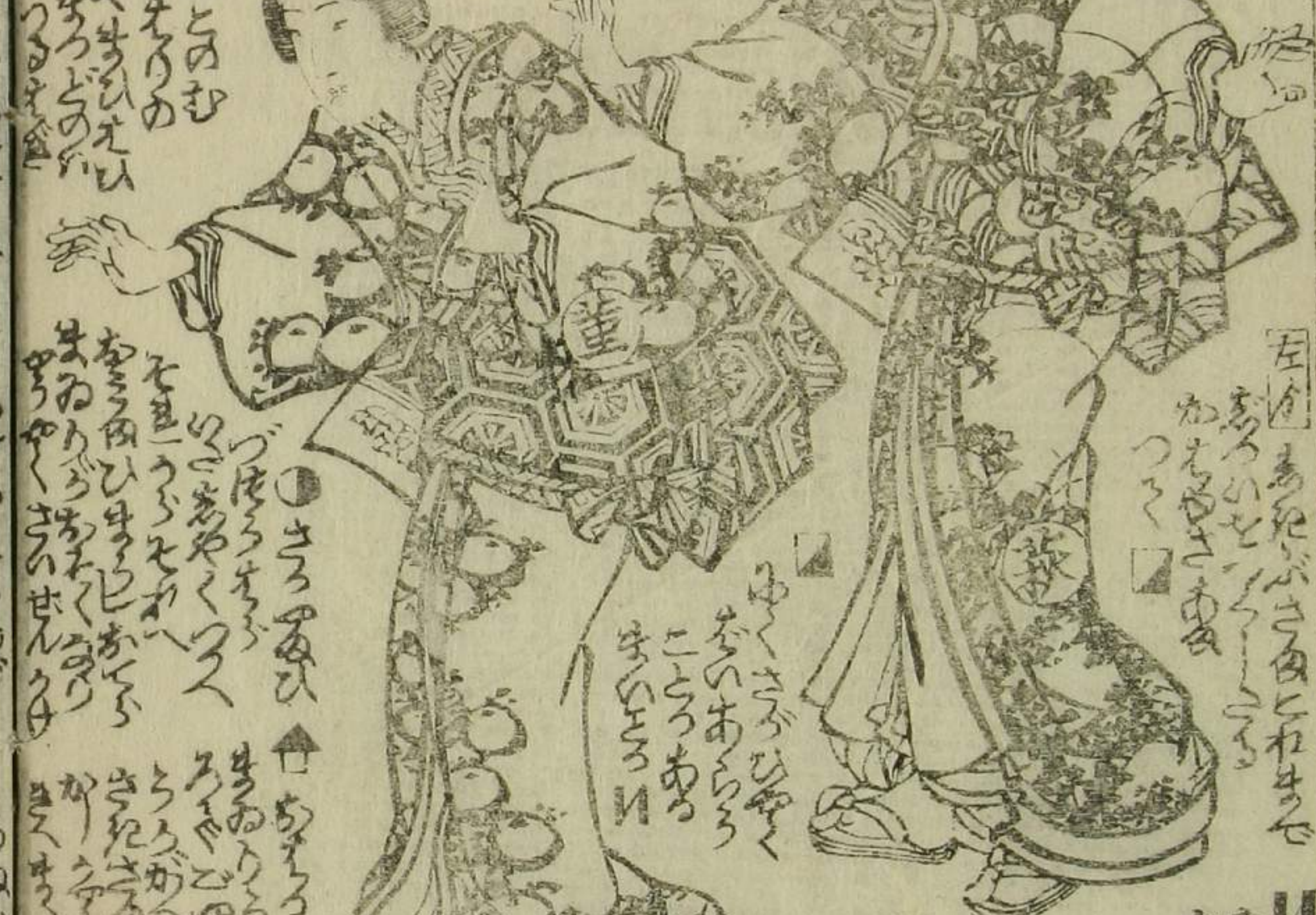
むねのま
ましく
そと
そと
まよののあり

まよののあり
まよののあり
まよののあり
まよののあり

まよののあり
まよののあり
まよののあり
まよののあり

まよののあり
まよののあり
まよののあり
まよののあり

つぎ二匹をひらく...
かちやせかたせらるる...
くたうのつらぬれ...
このふんぬん...
あつてつらぬり...
あつてつらぬり...
あつてつらぬり...
あつてつらぬり...
あつてつらぬり...
あつてつらぬり...



左のあつてつらぬり...
あつてつらぬり...
あつてつらぬり...
あつてつらぬり...
あつてつらぬり...
あつてつらぬり...
あつてつらぬり...
あつてつらぬり...
あつてつらぬり...
あつてつらぬり...

あつてつらぬり...
あつてつらぬり...
あつてつらぬり...
あつてつらぬり...
あつてつらぬり...
あつてつらぬり...
あつてつらぬり...
あつてつらぬり...
あつてつらぬり...
あつてつらぬり...



あつてつらぬり...
あつてつらぬり...
あつてつらぬり...
あつてつらぬり...
あつてつらぬり...
あつてつらぬり...
あつてつらぬり...
あつてつらぬり...
あつてつらぬり...
あつてつらぬり...

